

「健康を第一に」

鹿児島県立錦江湾高等学校 一年

瀬戸内 せとうち

真生 まお

中学二年生の夏。私は学校で、突然体調に異変を感じ、激しい頭痛におそわれました。そして病院で検査を受けたところ、「鉄欠乏性貧血」と診断されました。これはいわゆる鉄分の不足で、私の場合、血清鉄という血液中の成分が、最低基準の半分にも届いていないことがわかりました。血清鉄はヘモグロビンの原料となるため、これが不足すると、赤血球が作られなくなり、酸素も全身に届きづらくなります。実際、私もこの時から、目の前はぼやけ、足元はふらつき、いつ倒れてもおかしくない状態となりました。

この頃サッカー部に所属していた私にとって、大好きなサッカーに思い通りに打ち込めなくなった状況は地獄でした。私は小学校の頃にサッカーに出会ってから、その面白さに引き込まれていました。特に、「チームメイトと共にボールを追いかけて汗を流し、勝利をつかむ。」という一連の流れが私をとりこにしていました。サッカーは、自分にとってかけがえのないものとなっていたのです。ところが、病気を発症してからは見学が多くなり、元気にサッカーをしているチームメイトがすごく羨ましく、それからしばらくの間は、すべての事にやる気を失ってしまいました。その一方で、食事療法が始まりました。鉄分を多く含む食品を食べるように心がけ、あまり好きではなかったレバーも、努力して食べるようにしました。そして食後には薬を飲

んだため、次の検査の時には、最低基準まで達することができました。ただ、これは一時的なものでしかなく、貧血の症状は今でも出るため、日々この病気と戦っています。

現在、私はサッカー部としてサッカーを続けることは諦めて、趣味としてサッカーを楽しんでいます。サッカーをしていた時は本当に充実していて、その時の自分が一番好きでした。でも貧血は完全には治らないということ、そしてもう二度と同じ思いをしたくないという気持ちもあつて、サッカーには背中を向けてしまう形となりましたが、後悔はしていません。貧血の原因は、自分の体質的な問題と、成長に伴う鉄分の需要量の増加によるものらしく、今は、体質であるから仕方が無いと受け止めて、前向きに向き合うことができています。今はまだ、サッカーと同じくらい情熱を注ぐことができるものは見つかっていませんが、もし見つけることができれば、また一から頑張っていくつもりです。

こうした体験から、私は将来、医療に関わる仕事に就きたいと考えるようになりました。病院の先生方が私のことを親身になって考えてくださったことや、病気をしたからこそ患者さんの気持ちに寄り添えると思うからです。そして何より、健康は本当に大切だと実感しています。だからこれからも、自分自身や多くの人たちの健康を第一に考えながら生きていきたいと思っています。